

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」平塚校		
○保護者評価実施期間	2024年11月29日		2024年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2024年12月18日		2024年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年1月11日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	特性を踏まえたやニーズに応じた発達支援の提供	定期的に家族支援(面談)の機会を設け、ご家庭での様子や園での様子、当事業所での活動の様子を共有することで、お子さまの困り感やニーズに合わせた支援計画の作成、支援の提供を行っております。	今後も引き続き、定期的に家族支援(面談)を行い、困り感やニーズに合った支援の提供ができるよう取り組んでまいります。また職員全体で情報を共有し、質の高い支援の提供ができるよう取り組んでまいります。
2	家族支援の提供	定期的な家族支援(面談)、支援見学の機会を設け、フィードバックでの子育て等への助言、通所時はもちろん、LINE、メール、電話等のご相談を随時受け付け、保護者の方の困り感に寄り添った支援を心がけております。また、関係機関連携で園との連携を行ったり、保護者会(パレットレック)を開催し、保護者同士で交流したり、情報提供する機会を設ける等の支援を行ってきました。	子どもは、家族やその家庭生活から大きな影響を受けるため、「こどもまんなか」にしたにご家族への支援の充実の大切さが重要と捉えております。ライフステージを通じて、ご家族をしっかりとサポートすることにより、こどもの「育ち」や「暮らし」が安定し、こどもにも良い影響を与えることが期待できると考えるため、家族全体の支援を今後も進めてまいります。
3	高い満足度	利用者の方が「安心感」をもって通所できることを第一に、その上で通所が楽しい・有意義だと思っていただけよう、支援の質の向上に向け、職員の研修も日々進めております。特に発語の支援ではことばを歌で促す支援方法の研修を事業所内で行ったり、事業所内で教材を作成したりと、支援の充実を推し進めてまいりました。	今後も引き続き、安心感を感じ、来所が楽しい・充実した支援内容の提供を目指し、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。困り感やニーズに合わせた支援の提供、支援の質の向上を目指し、利用者本人や家族の方に今後も満足を感じていただけるよう進めていきたいと思います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアルや法体制のわかりやすい周知	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、ご契約時に周知・ご説明させていただいておりますが、周知の仕方に課題があり、説明を受けていないとの印象を持たれる保護者の方がいられました。	事業所内にわかりやすく掲示を行ったり、会報「きらり通信」やブログ・SNSを用いた発信を行い、わかりやすい周知の仕方、繰り返し伝えてまいります。
2	保護者同士の交流の機会の充実とわかりやすい周知	今年度は7月と11月に保護者会・パレットレックの会を開催し、保護者の方同士で交流したり、情報提供する機会を設ける等の支援を行いました。また、家族支援(面談)では、ごきょうだいの子についての子育てのアドバイスも行いましたが、周知が足りず、実施している状況が伝わっていただけない方がいられました。	今後はさらにわかりやすい周知の仕方、保護者会実施をお知らせしてまいります。また、年齢期のお子さまのご利用者の保護者の方にも興味を持っていただけるような内容の保護者会の企画をしていきたいと思います。
3	避難訓練等の活動実施のわかりやすい周知	非常災害の発生に備え、毎月テーマを決め、全職員で防災訓練を実施しております。防災訓練の計画・実施については、教室掲示を行い、児童の支援時に行った訓練や支援については会報「きらり通信」やブログやSNSにて様子をお伝えしておりますが、実施報告についてわかりにくいという印象を持たれる保護者の方がいられました。	事業所内にわかりやすく掲示を行ったり、会報「きらり通信」やブログ・SNSを用いた発信を行い、わかりやすい周知の仕方、繰り返し伝えてまいります。また、防災についての支援を個別・小集団で実施した際には、フィードバックでねらいや支援の成果をわかりやすく説明してまいります。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」平塚校					公表日	2025年 2月 15日		
						利用児童数	26	回収数	26
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25	1	0	0	分室ができて、人気の時間帯に入ることができたらと思う。児童に合わせたレイアウトとスペースを確保いただいている。	法令を遵守したスペースを確保している。支援内容に応じ、スペースを考慮しております。		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	26	0	0	0	充分に配置されていると思う。	法令で必要とされる職員の配置をしております。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	2	0	1	児童に合わせたレイアウトとスペースを確保いただいていると思う。	バーテーションで区切り、利用者にあったスペース作りを一人ひとりに合わせて設定しております。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24	1	0	1	消毒等がどこまで行われているのか把握しにくい。(テーブルや椅子、教材・玩具がされているのか等)	日々の清掃・消毒・換気に努めています。利用者の特性や課題に合わせた支援スペースをご案内しております。		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24	0	0	2	児童の特徴を理解いただいた支援プログラムと理解している。他の事業所を利用したことがないことや、自分に専門的な知識が少ないため、専門性のある支援が受けられているかはわからない。子どものことを十分に理解して貰っているとは感じている。	家族支援(面談)を実施し、本人や保護者の方の困り感やニーズに合わせた個別支援計画を作成しております。また、特性等に応じた専門性のある支援の提供を心がけています。		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25	1	0	0	都度、来所時に説明いただいている。	本人や保護者の方の困り感やニーズに合わせた個別支援計画を作成します。また、計画に基づいた支援内容を計画し、保護者と確認しながら支援を行っています。		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	26	0	0	0	作成後、説明いただき、納得している。	家族支援(面談)を定期的に行い、保護者の方のニーズをお聞きし、児童発達支援計画を作成しています。		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25	0	0	1	時折、どのような計画になっているか、振り返りたい時にバツと読めない。	5領域とのつながりを明確化した上で、分かりやすい、具体的な支援内容を設定するようにしています。5領域の支援については、面談等でわかりやすく説明する機会を設定できるよう心がけております。		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26	0	0	0	本人に合わせた支援をしているが、振り返りたい時に読めない。	職員間の日々の情報交換を密に行い、共通理解をし、職員全体で支援プログラムの立案・支援実施を行っております。		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	25	1	0	0	その日の振り返りから「次こうしてみます」等、本人の自立を考慮した進行で改善を図っていると思う。	発達段階や個々の成長をアセスメントし、支援計画に沿った支援内容について、随時検討する場を設けて、活動プログラムが固定化されないよう工夫しております。		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	1	3	9	交流等の活動に参加できていないので、わからない。	個別療育のため、児童同士の交流は現状実施していません。在籍児童の通園している園への関係機関連携を必要に応じて行っております。		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26	0	0	0		ご契約時に運営規程、支援プログラム、利用者負担等についてわかりやすくご説明できるよう努めております。		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26	0	0	0	とても丁寧であった。	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行っております。		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	1	0	1	情報はその都度提供いただいている。	今年度は7月と11月に保護者会・ペアレントトレーニングの会を開催しました。「声かけの仕方のヒント」や「就学について」の情報提供の機会を設けたり、保護者同士で交流の支援を行いました。		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	26	0	0	0	ふとした子どもの行動から、「こういうところに成長を感じる」等の理解を示していただいている。	毎回の支援後のフィードバックや、定期的に家族支援(面談)を行い、保護者の方とお子さまの状況や発達の状況について共通理解が取れるように努めております。		

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	1	0	1	定期的に家族支援（面談）を行い、保護者の方の子育てに関するアドバイス等が行えるよう、努めております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	0	0	0	本人に合わせて支援していただいている。職員間で日々の情報交換を密に行い、利用者の方を含めたご家族支援を共感的に行えるように努めております。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	4	0	9	他のお友だちの保護者の方の声や、子ども同士の交流等があると嬉しい。先日のzoomでの保護者交流もありがたかった。参加できていないので具体的にわからない。兄弟向けは不明。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25	0	0	1	そういった相談のケースがないため、不明。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	0	0	1	SNSを利用した取り組みがある。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22	1	0	3	定期的な「きらり通信」の発行他、個別のカレンダーを作成し、予定の確認を行っています。また、ブログ、SNSを活用し、活動概要等の発信を行っています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	0	0	1	利用者の個人情報はファイル管理した上で施錠できる書庫で保管しています。SNSでの発信の際は個人情報に留意しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	2	0	6	マニュアルについては通所開始時、説明資料があった。避難訓練についてはわからない。聞いていないかも。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	1	1	13	マニュアルについては通所開始時、説明資料があった。避難訓練についてはわからない。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	0	0	2	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、ご契約時に周知・ご説明させていただいています。また、発生を想定した訓練を月に1回実施しております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	0	0	8	事故等の発生はしていないため、わからない。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	26	0	0	0	本人が楽しそうに通う姿を見ているので、良い環境なんだと実感します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	26	0	0	0	毎回楽しみにして通ってます。毎週楽しく通ってます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	0	0	0	子どもに寄り添った支援を受けることができ感謝しております。いつも子どものニーズに合ったサポートをしていただきありがとうございます。いつも子どもをよく見てくれてありがとうございます。周りのスタッフの方々の声かけも、いつも自分にはない発想があったりと、自分にとっても学びが大きく、楽しみに通っています。今後ともしろしくお願いいたします。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもサポート教室「きらり」平塚校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーティションで区切っている。利用者に合ったスペース作りを一人ひとりに合わせて設定している。	法令を遵守したスペースを確保している。支援内容に応じ、スペースを考慮している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で必要とされる職員の配置をしている。	法令で必要とされる職員の配置をしているが、さらなる職員増を希望している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		個に応じたプログラム表やカード等で視覚提示し、構造化された環境作りをしている。パーティションでスペースの大きさを調節し、構造化で集中できる環境作りを行っている。	段差の箇所があるため、段差が分かりやすいよう、色テープで視覚化している。個に応じ、場所の移動がある際は指導員が必要箇所につくようにし、安全面の配慮が行われるようになっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃・消毒・換気に努めている。利用者の特性や課題に合わせた支援スペースをご案内している。	さらに空間が広いとよいが、生活空間を清潔で心地よく過ごせる環境になるよう、また、子ども達の活動に合わせた空間になるよう努めていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の支援の部屋はないが、必要に応じ、パーティションで空間を作っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の振り返りに加え、月末会議では月次での会議改善活動報告等を行っている。	今後も業務改善を進めるため、職員全体で目標設定と振り返りに参画して取り組んでいきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けアンケートの結果を踏まえ、事業所としての自己評価を行っている。	今後も職員全体で保護者等のご意向等を把握し、業務改善に努められるようにしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の振り返りに加え、月末会議では職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者による外部評価は行っていない。	今後は検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の発達支援研究所の定例研修、指導員勉強会、初任者研修、階層別研修、児発管研修等、研修の機会を確保し、職員の資質向上を行うよう努めている。	研修の機会の確保を今後も行うとともに、自校舎での支援方法の情報交換や研修も引き続き行い、支援の資質の向上に努めていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		本人や保護者の方の困り感やニーズに合わせた個別支援計画を作成している。計画に基づいた支援内容を計画し、保護者と確認しながら支援を行っている。	支援プログラムの公表については、「支援内容の見える化」の観点から、令和7年4月1日からの義務化に向け、5領域とのつながりを明確化した上で、法人全体で内容検討を重ねている。HPIに掲載したプログラム内容の実践を進めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		統一のアセスメントシートを用いて定期的にアセスメントやモニタリングを行っている。事業所内相談支援を定期的に行い、保護者のニーズをお聞きし、児童発達支援計画を作成している。	今後も引き続きアセスメントを適切に行い、子どものニーズや課題を丁寧に聞き取っていききたい。職員間で会議を行い、情報交換をすることで、客観的に分析した児童発達支援計画作成に努めていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々の情報交換を密に行い、共通理解をすることで、支援プログラムの立案をチームで行い、共有している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に沿った支援内容について、随時検討する場を設けている。	毎回の支援を児童発達支援計画に沿った内容になっているか、今後も職員全体でチェック体制を取りながら進めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		統一のアセスメントシートを用いて定期的にアセスメントやモニタリングを行っている。事業所内相談支援を定期的に行い、保護者のニーズをお聞きし、放課後等ディサービス支援計画を作成している。	今後も引き続きアセスメントを適切に行い、子どものニーズや課題を丁寧に聞き取っていききたい。職員間で会議を行い、情報交換をすることで、客観的に分析した放課後等ディサービス支援計画作成に努めていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域とのつながりを明確化した上で、分かりやすい、具体的な支援内容を設定している。5領域の支援については、面談等でわかりやすく説明する機会を設定できるよう心がけた。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々の情報交換を密に行い、共通理解をすることで、支援プログラムの立案をチームで行い、共有している。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		構造化の観点から、プログラムをわかりやすく枠組み設定している。内容については、発達段階に応じてステップアップをし、固定化したりしないよう、職員全体で話し合い、工夫している。	構造化を行い、今後も安心して取り組める環境設定を行っていく。内容についてレベルアップの仕方について職員間で情報交換を密に行い、魅力のある活動プログラムを行うことができるよう努めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の状況やニーズに合わせ、状況を見ながら個別・集団の療育を組み合わせている。	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせ、児童発達支援計画を作成していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前回の利用者の様子や内容、保護者の方のお話の内容を踏まえ、支援を行うことができるよう、随時職員間で打ち合わせを行っている。	今後も職員間で打ち合わせを定期的に行い、支援の内容やねらいについて確認を行っていく。記録シートを活用し、今後も職員間で情報交換が円滑に行えるようしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		業務に合わせ、打ち合わせの実施をしている。職員相互の情報共有を円滑するためのツールも適宜活用している。	今後も職員間での打ち合わせを定期的に行い、支援の振り返りや、引継ぎを行っていく。記録シートを活用し、情報の共有に努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎回の支援の記録をとり、支援の検証・改善につなげている。	今後も日々の支援記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月のモニタリング期間にこだわらず、状況が変化しただけには支援計画の見直しを行っている。	今後も状況が変化した場合に随時支援計画の見直しを行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や専門的支援職員が出席するようにしており、その内容については職員間で情報共有もしている。	今後も様々な関係機関と連携した支援を行い、多角的な視点で支援を行っていくことができるよう、努めていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の要望に応じ、行政の発達支援室や保健センター、幼稚園・保育園への関係機関連携の実施を行っている。	今後も様々な関係機関と連携した支援を行い、多角的な視点で支援を行っていくことができるよう、努めていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行利用をしている園と関係機関連携を積極的に行い、支援内容の情報共有や相互理解に努めた。	今後も様々な関係機関と連携した支援を行い、多角的な視点で支援を行っていくことができるよう、努めていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行支援として、事業所の立場で支援シートの作成を行い、支援内容等の情報共有に努めた。	移行支援として、今後も関係機関と支援内容等の情報共有と相互理解に努めていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言等を受ける機会を設けているか。	○		障がい児自立支援協議会子ども部会未就園児部会分科会への参加し、今年度は報酬改定についての個別支援計画や専門的支援についての研修や情報共有でスーパーバイザーの助言等を受けることができた。	今後も地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言等を受ける機会を積極的に持っていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		児童同士の交流は現状実施していない。必要に応じて情報交換を行っている。	今後も在籍児童の通園している園への連携訪問を通じ、情報交換等を行っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の支援後のフィードバックの他に、家族支援を定期的に行い、児童の発達の状況について、保護者との共通理解が持てるよう努めた。	今後も家族支援支援を定期的に行い、子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持てるよう、努めていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		今年度は「声かけ変換」「就学」の保護者会(ペアレント・トレーニング)を行い、保護者の対応力の向上を図る研修や情報提供を行った。	今後も保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行ってまいりたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に保護者に説明を行い、理解を得ている。また、教室にも常時掲示し、閲覧できるようにしている。	今後も運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行ってまいりたい。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		児童発達支援計画を作成する際には、面談等で困り感やニーズの聞き取りを密に行っている。	今後も児童発達支援計画を作成する際には、面談等で困り感やニーズの聞き取りを密に行ってまいりたい。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得られるようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	定期的に家族支援を行い、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	きょうだい同士で交流する支援は行っていないものの、保護者会等を開催し、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	通所時はもちろん、LINE、メール、電話等のご相談を随時受け付けている。状況に応じ迅速かつ適切に対応するよう努めている。	今後も子どもや保護者からの相談や申入れがあった場合に、迅速かつ適切に対応できるよう、職員全体で取り組んでいきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	定期的に「きらり通信」の発行他、個別のカレンダーを作成し、予定の確認を行っている。また、ブログ、SNSを活用し、活動概要等の発信を行っている。	今後も定期的に「きらり通信」を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をわかりやすく発信していく。ブログやSNSを活用し、随時情報発信を行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	利用者の個人情報はファイル管理した上で施錠できる書庫で保管している。SNSでの発信の際は個人情報に留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	絵カードやジェスチャーを用いて、意思の疎通や情報伝達のためのわかりやすい配慮を行っている。保護者の方には状況に応じ、口頭だけでなく、メモやプリント、メールやLINEでの配慮も行っている。	今後も障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮を行っていく。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	個別療育のため、児童同士の交流は現状実施していないが、在籍児童の通っている園の先生が支援の見学に来所いただき、連携を深めている。	今後も在籍児童の通学している学校への連携訪問を通じ、情報交換等を行っていく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、発生を想定した訓練を月に1回実施している。	防災訓練等の情報をHPのブログや、教室会報の「きらり通信」、SNS等にも掲載し、保護者の方にもわかりやすく周知していきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	契約時に保護者から情報をお聞きし、基本情報シートに記入いただいている。支援に入る前に情報の確認を行っている。	今後も保護者と情報交換を行い、こどもの状況を職員間で確認していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食事の提供はないが、契約時に必ず聞き取り、基本情報シートに記入いただき、情報を職員間で共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	その都度ヒヤリハット表に記入し、事業所内で対策を検討している。	今後もヒヤリハット事例を随時記録し、情報共有することで、職員の意識をさらに高めていきたい。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止委員会が組織化されている。全職員で研修に参加し、適切な対応が取れるようにしている。	今後も虐待を防止するため、職員の研修の機会を確保する等、適切な対応を継続していきたい。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束の基準を重要事項説明書に記載し、契約時に保護者に説明を行っている。	よりわかりやすく保護者に説明し、また職員全体で考え方や意識を共有していきたい。	